



笑顔あふれる日本のために

大田区立東調布中学校 三年 羽山 花笑

税金は社会をより豊かに、過ごしやすくするためにあるものだ。信号や学校の設備、様々な点において私達の日本は税金に助けられている。しかしそれは外面のことで、全ての人が本当に暮らしやすくなっているのかと問われたらまた話は変わってくるのではないだろうか。私は税の本当の必要性について考えたい。私は、税金は「全ての人の笑顔のためにあるもの」であると考ええる。

先日私はニュースを見ていた時に、少しレギュラーな言葉を目にした。耳が聞こえない店主の経営する移動販売の飲食店。メニューに載っているものを指でさして注文し、言葉を使わずに飲食を提供するのだ。障害があっても自分ができることで人のために努力する姿に、素直に感動した。その一方で、これは飲食店であるため税金による支援がない。つまり、経営の初期費用が大きく掛かるために全ての人が分け隔てなくこの店主と同じような活動ができるとはいえないのである。

それならば、初期費用のいらないレストランで働けば費用が安く抑えられるのだろうか。移動販売の開業とレストランの就職とでかかる費用を比較してみよう。移動販売では約六百万前後、レストランでは採用

経費たったの五万円だ。ただ、レストランに就職した場合、周りには障害のない人間ばかりだからこそ、あまり受け入れられなかったり障害者自身が差別感を感じてしまうこともあるという。特に耳が聞こえないのならば、接客でも苦しみこととなってしまふはずだ。

私はそんな障害の壁をなくすために、税金による助成金制度があるべきだと考える。具体的には私立高校の授業料無償化があるように、申請をすれば開業や就職のための費用をもらえるようにしたい。もちろん、「本気で頑張りたいからお金を貰おう」と思う人がいる一方で、「ただお金を貰って楽したい」と考える人がいる心配もあるだろう。だからこそ、事前にしっかりとした計画書の提示や定期的な報告義務を設け、助成金制度を通じて本気で仕事に励む人の姿が広まれば、「自分も本気で頑張りたい」と思う人が増えるのではないだろうか。誰もが笑顔で暮らすには、一人一人の頑張りたいという気持ちを無視せず、発信していくことが大事だ。

障害者に限らず、高齢者や子持ちの世帯など、事情によって仕事への選択肢が狭まってしまう人がたくさんいる現状がある。税金というのはその可能性や選択肢を広げるために使われるべきであり、それこそが税金の本質なのではないだろうか。税金によって努力が報われ、自然と笑顔があふれる。そんな日本になることを、私は強く信じている。